



恵方巻¹への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -



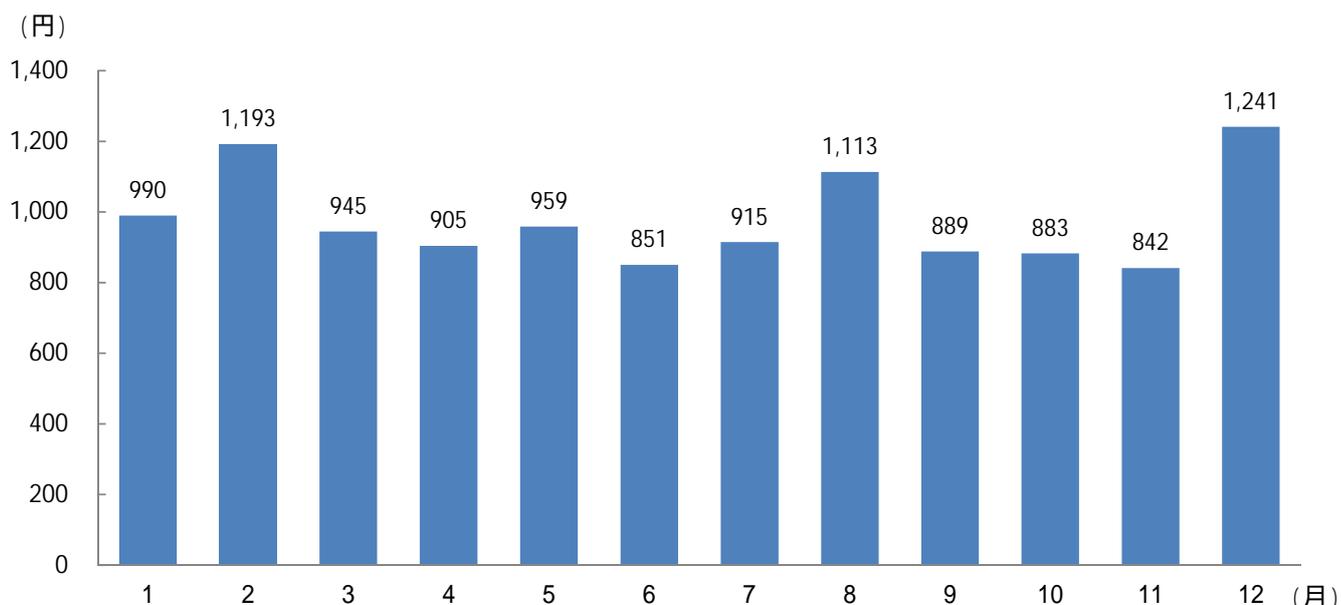
2月3日は節分の日。皆さんは節分の日といえば何を思い浮かべますか。「豆まき」を思い浮かべた方が多いのではないかと思います。ここ最近では「恵方巻を食べる」ことも節分の日に行うこととして全国的に定着してきたようです。家計調査では「恵方巻」を単独で集計していませんが、「調理食品」の中の、恵方巻が含まれている「すし（弁当）」²の結果を基に、今月は恵方巻への支出について見てみましょう。

- 1 「恵方巻」とは、節分に食べると縁起が良いとされる太巻きのことです。節分の夜にその年の恵方（平成27年は西南西）を向いて、黙って願い事を思い浮かべながら、切らずに一本食べ切るのが、正しい食べ方とされています。
- 2 「すし（弁当）」には巻き寿司のほか、にぎり寿司、いなり寿司なども含まれます。

2月は「すし（弁当）」への支出が12月に次いで多い

まず、「すし（弁当）」への1世帯当たりの月別支出金額について、最近（平成23～25年平均）の状況を見てみると、クリスマスや年末など人が集まる機会の多い12月（1,241円）が最も多く、次いで2月（1,193円）が多くなっています。2月は最も日数が少ない月ですので、1日当たりに換算すると最も多く支出している月となります（図1）。

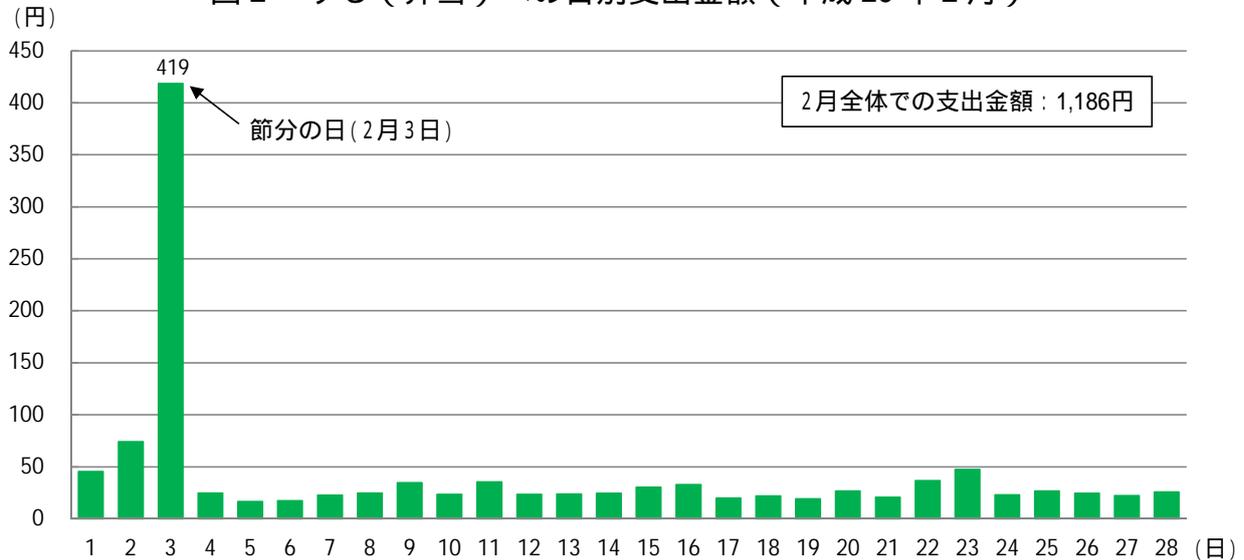
図1 すし（弁当）への月別支出金額（平成23～25年平均）



節分の日が圧倒的に多い

次に、平成26年の2月について、「すし(弁当)」への1世帯当たりの日別の支出金額を見てみると、節分の日当たる3日の支出が419円と圧倒的に多く、2月の支出(1,186円)の3分の1以上を占めています。この結果を見ると、節分の日に恵方巻を食べるといふ風習が家計調査の結果にもしっかり出ていることが分かります(図2)。

図2 すし(弁当)への日別支出金額(平成26年2月)



近畿地方から全国的に広まってきている恵方巻

最後に、2月の「すし(弁当)」への1世帯当たりの支出金額(平成24~26年平均)を地方別に見てみると、近畿地方で最も多くなっています。節分の日恵方巻を食べる風習は大阪周辺で始まったと言われており、現在も特に近畿地方でよく食べられているようです。

また、10年前(平成14~16年平均)と比べてみると、北海道や沖縄などの地方で支出金額が増加していますので、近畿地方以外の地方でも恵方巻を節分に食べるようになってきているとみられます(図3)。

図3 2月のすし(弁当)への地方別支出金額

